



町長エッセイ



4月1日、本年度のスタートは新しい元号の発表の日でした。慣れ親しんだ平成からどんな元号になるか、日本中が注目するなか、「令和」が掲げられました。その出典が万葉集と知り、「万葉集ゆかりの小川町」を発信してきた町にとっては追風になる改元でした。

大塚の中城跡に大きな仙覚律師顕彰碑があるのは皆さんも知っていると思います。仙覚は鎌倉時代に万葉集の歌を全て読み「万葉集註釈」を小川で完成させた人物です。町ではこの偉業を知ってもらうため「おがわ仙覚万葉展」を町立図書館で毎年開催してきました。

また、NPO紫草と万葉の会では、万葉集に詠まれている

希少種の紫草を栽培し、その根で染めた作品とともに展示を続けています。

4月8日は、各小中学校の入学式でした。今年は桜の花も新入生を待つ、竹沢小学校に出向きました。町内の小学校で1番少ない6名の新入生でした。上級生が優しく迎えている姿がとてもほほえましく思えました。

13日は第6回3蔵の酒蔵めぐりでした。駅前で、ミス日本酒の皆さんとお客様を出迎えました。好天に恵まれ、これまでにないにぎわいでした。

松本恒夫